

広報

おやすみ

2022

1

No.204

(巻頭) 新年ごあいさつ

(対談) コロナ禍を乗り越え2022年に向けて

(受賞) 2021年度グッドデザイン賞



大洲市長
二宮 隆久
たか ひさ

持続可能なオンリーワンのまちづくり

あけましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい初春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、感染力が非常に強い新型コロナウイルスの「変異株」による感染が拡大し、県内においてもピーク時には1日当たり100人を超える感染者が確認される状況に陥りました。そのような中で、喜多医師会、薬剤師会をはじめ、医療関係者や市民の皆様のご協力により、対象者の約86%を超える人に2回のワクチン接種を終えることができました。皆様のご協力で心から感謝を申し上げます。このワクチン接種の促進や感染回避行動の徹底により10月以降は感染者が減少傾向となりました。今後も正しいマスクの着用やこまめな手指消毒・換気など基本的な感染防止対策を徹底しながら、ウィズ・コロナを念頭に日常生活と疲弊した地域経済の早急な回復に力を注いでまいります。

今年は、新しい肱川橋が開通し、8月には延期された復興イベント「えひめ南予きずな博」において、肱川の河川敷にステージを設置して屋形船などから音楽を楽しむ新しいスタイルのイベントも計画されています。平成30年7月豪雨から3年半が経過し、復旧・復興事業では、災害公営住宅の整備が終わり、肱川緊急治水対策による堤防整備が進んでいます。しかし、気候変動により激甚化・頻発化する自然災害への備えに終わりはありません。引き続き、治水対策と地域防災力の強化を図ってまいります。

また、まもなく市内全域で光ファイバ網の整備が完了します。是非、多くの皆様にご利用いただき、デジタル技術も活用して市民生活をより良いものにしていかなければなりません。デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進するなかで、「市民生活がストレスなく幸せを感じられる環境づくり」、「ふるさと大洲で自信をもって安心して生活できる大洲のこれからのあるべき姿のマイนด์づくり」、「大洲市出身です！と若者が胸を張って言えるようなオンリーワンのまちづくり」の実現に向けて取り組みます。コロナ禍の影響により、テレワークやワーケーションなど新しい働き方改革が進んでいるこの機会に、大洲市の豊かな自然、歴史・文化、食や営みなどの魅力を発信して「大洲へのファン」を増やしていくとともに、次の世代においても住み続けたいと思える持続可能で魅力あふれる大洲市を目指してまいります。今年も一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年一年が市民の皆様にとりまして幸多い年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。



大洲市議会議長
大野 立志

みんな輝く肱川流域のまち

新年、あけましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えることと心よりお喜び申し上げます。

昨年9月に市議会議員選挙が行われ、新しい議会がスタートしました。議員一同市民の皆様とともに、きらめくおおず「みんな輝く肱川流域のまち」の実現に向け、より一層最善を尽くす覚悟でございます。

さて、昨年を振り返りますと、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、聖火が市内を巡り「復興への思いをつなぐ聖火リレー」として希望の灯をつないでいただきました。また、市指定文化財「旧松井家住宅主屋」の改修工事が完了し、「盤泉荘」として市の観光資源の一つに加わるとともに、10月には、「臥龍山荘庭園」が市内で初めて国の名勝に指定されました。先人の残された優れた遺産が高く評価されることは大変喜ばしく、市内の文化財とともに保存、継承に努め、交流人口の増加につながることを期待するものであります。

さらに、近年の伸展著しいデジタル化社会に対応するため、大洲市におきましても令和3年度中には、市内ほぼ全域で光ブロードバンドサービスが開始されます。生活はもとより産業や福祉、教育など、さまざまな分野でご活用いただき、大洲市が更なる飛躍の年となりますよう願っております。

現在、アフターコロナに向け、人々が心を一つにして力を合わせながら、この感染症を抑え込み、乗り越えようとしています。私たち市議会におきましても、いかなる状況にあらうとも責務を果たし続けるという強い認識のもと、二元代表制の一翼を担い、市長と常に緊張感のある関係を保ちながら、市民の皆様の信託に応えられるよう、コロナ対策および豪雨災害からの復旧・復興をはじめとする課題の解決に対し、更なる努力を傾けてまいります。

また、市議会では、議会機能の充実強化と開かれた議会を目指し、大洲市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画を踏まえた新たな取組として、本年2月から議員向けのタブレット端末の導入を予定しており、議会運営の効率化や議会機能および危機管理体制の強化に努めてまいります。

今後におきましても、議員自ら自己研鑽に努め、郷土発展のため、誠心誠意全力を傾注してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、改めてコロナ禍の終息を願い、本年が市民の皆様お一人お一人にとって実り豊かで明るい一年となりますことをお祈りし、新年のごあいさつといたします。

(対談) コロナ禍を乗り越え2022年に向けて

～懐かしさを感じる美しい風景と大洲市の魅力～

参加者 たきのえいじさん (作詞作曲家、大洲市きらめき大使)

かとうれい子さん (歌手、大洲市きらめき大使)

越智康雄さん (映画「声」監督、今治市出身)

聞き手 二宮隆久 (大洲市長)

12月12日(日)に映画「声」の上映会・かとうれい子コンサートを市内で開催するに当たり、大洲市きらめき大使で映画の主題歌「あなたの声が聞こえる」の作詞作曲をしたたきのえいじさん、主題歌を歌うかとうれい子さん、監督の越智康雄さんに大洲市の魅力と2022年に向けた取組などについて聞きました。



【二宮】

映画「声」の見どころや大洲市で上映会を開催するまでの経緯を聞かせてください。

【たきの】



この映画のプロデューサーは、大洲市本町出身で私の同級生の姉というご縁もあって、映画の台本を送ってもらい、涙を流しながら読みました。そして主題歌を書かせてくださいと返事をして、私の周りに多くの歌手がいる中で、この映画には、かとうさんの声が一番合うと思いました。

ふるさとにこの映画を持って帰りたい、みんなに元気になってもらいたいと復興イベントを企画して、今回の上映会につながりました。

【越智】



3年前に製作したこの映画には、失明した状態で医師を続けられていた実在するモデルがいます。災害もそうですが、人間はいつ何が起こるかわからないものです。

映画は、目が見えなくなるところからはじまり、失意の中で旅に出て、失業した人や男性から女性になった人など、色々な人との出会いの中で、人は悩みや心配ごとを抱えて生きていることに気付く物語です。報道では伝えられていませんが「死にたい、立ち直れない」と思った人もいます。この映画を見ていただいて、もしかしたら気持ち的に吹っ切れていない人が、一人でも、がんばろうという気持ちになってくれたら良いと思っています。

映画の中で「身障者ではありません。ただ目が見えないだけです」という言葉が出てきます。この映画をきっかけに一人でも「よし、がんばろう」と言っていた人が出てきたら成功だと思っています。

【かとう】

今回、この映画の主題歌を歌わせていただきました。

映画の主題歌を歌うことを歌手としての目標にしてきたので、ひとつ夢が叶い嬉しく思っています。



【二宮】

平成30年7月豪雨災害では多くの方が大変な思いをして、心に穴が開いた人もいますので、一人でも多くの人に見ていただいて感動してほしいと思っています。

コロナ禍で大変だったと思いますが、2021年はどんな1年でしたか。



【たきの】

イベントができない、歌をつくっても発表できる場所がなく、小さなサークルやカラオケを含めた大会などの集まりをすべてキャンセルしました。

必ず良い時期が巡ってくるからと言い聞かせながら、周りの人たちにも、これから歌をいっぱい出すから待ってほしいと伝えてきました。

【かとう】

厳しい1年でした。悪いことはずっとは続かないと思いき、強い気持ちと希望をもって過ごしました。厳しい状況の中でも力を貸してくれたり、アイデアを教えてくれる人もいたので、何とか踏ん張ることができました。



【二宮】

都会から見た大洲市の魅力をどのように感じていますか。

【たきの】

一番は、言葉が好きです。大洲弁は、風土を表し、人柄を表しています。大洲弁が好きです。大洲の外に出て外遊しないと良さがわからないもので、東京や大阪に行って人柄が分かってきたと思います。旅先では、どういう人柄の人と、どういう言葉を交わすのが大切です。私が大洲を紹介する際には、「志ぐれ」を買う時に、ぜひ店の人と会話をしてみてくださいと伝えています。

【越智】

今治で育ったが、大洲にもよく来ていました。肱川が流れていることが町の雰囲気を作っています。今回の映画は、天草で撮影しましたが、若い人が方言をしゃべれない状態だったので、方言を残してほしいと思っています。そして、おはなはん通りの雰囲気などを残して欲しい。水俣病発見者である細川博士などいろんな先人がいる町であり、大洲は大洲であり、小京都という表現は相応しくないのではと感じています。この町は、ほっとしてみたり、懐かしさを感じる町です。この雰囲気を残して欲しいです。



【かとう】

大洲城の宿泊や古民家を宿泊施設にすることを見聞きし、新しいことを発信されていると思っています。歴史と一緒に市民の気持ちも発信されているので、懐かしいけど新しい町であり、臥龍山荘や肱川の美しさなど、大洲市全体がすばらしい商品、美術館のようで、世界から見てもすばらしい町だと感じています。

【二宮】

ありがとうございます。自信を持ちます。城下町の雰囲気を残していく方法として、町家・古民家などを宿泊施設やテナントとして活用することで、最近では、麦酒工房などの出店もあります。大洲の良さを保ちながら、アフターコロナも見据え、デジタル化も活用し、自然豊かなところで暮らしたいと思う人を選んでいただけるような町にしたいと思っています。たきのさんとかとうさんにも背中を押していただければありがたいです。



【二宮】

最後に2022年の目標と大洲市民へのメッセージを聞かせてください。

【たきの】

1、2カ月で状況は変わらないと思いますが、希望の塔を自分で建てて、そこに無理なく1日分だけ進んでいこうという気持ちがあれば絶対にくたばらないと思っています。今、その思いを書いた歌を準備しています。

そして廃校になった学校、だれも来なくなったところでコンサートをやろうと計画を立てているところです。このコンサートは、かとうさんの声が似合うので、実施に向けて、知名度も歌唱力もレベルを上げていくように宿題を出しています。東京や大阪からお客さんを連れてきて、大洲でコンサートを行えるように、その土台をつくる年にしたいと思います。

【かとう】

2021年は厳しい状況でしたが、2022年に向けて取り組んできましたので、その一つひとつを形にしたいと思っています。多くの人の賑わい（にぎわい）を東京で作って、大洲でのコンサートを目指していきたいと思っています。まだ厳しい状況は続くと思いますが、希望を持って一日一日を一緒に生き抜いていきましょう。

【越智】

もう一本映画をつくりたいと思い、その準備に入っているのですが、是非実現させたいです。

本当に苦しい人は、なかなか表に出てこないと思いますが、人間は、自分を出すと人が寄ってきてくれます。言葉が優しい大洲は、何かあったときに助け合える風土だと思うので、自分だけで悩まないで、元気づけられるようにがんばってほしいと思います。





GOOD
DESIGN

2021年度グッドデザイン賞を受賞

歴史的建造物を活用した観光まちづくり

VMG HOTELS&UNIQUE VENUES・愛媛県大洲市城下町の取組



日本初の城泊「大洲城キャッスルステイ」や分散型ホテル「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」など、大洲市の町家・古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりを官民連携により実践している取組が、2021年度グッドデザイン賞（地域の取り組み・活動）を受賞しました。

1957年に開始されたグッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）は、デザインによって私たちの暮らしや社会をより良くしていくための活動で、製品、建築、ソフトウェア、システム、サービスなど、かたちのある無しに関わらず、人が何らかの理想や目的を果たすために築いた物事をデザインと捉え、その質を評価・顕彰しているものです。

2021年度グッドデザイン賞は、過去最多となった5,835件の審査対象の中から、国内外のデザイナーや建築家、専門家など、各分野の一線で活躍されている8人の審査委員による厳正な一次・二次審査を経て、令和3年10月20日(水)に1,608件の受賞が発表され、県内では、4件が選ばれました。

受賞企業：一般社団法人キタ・マネジメント
株式会社K I T A、バリューマネジメント株式会社

【審査委員の評価】

各地に展開する「NIPPONIA」と「NIPPONIA HOTEL」。歴史的建造物を利活用する宿泊施設として知られているが、特に大洲市での取組で評価のポイントとなったのは、「文化財は行政が維持管理するもの」という従来の考え方を打破して、民間事業者の収益によって保全利活用を試みていること。

「日本初の城泊」という話題性を元に「大洲」という街の名前をPRしていこうという点も興味深い。「城泊」は1泊1名55万円と高額だが、唯一無二の体験が可能なおこと、文化財保全の募金的側面を考えれば決して高くはない。各地に展開する「NIPPONIA」「NIPPONIA HOTEL」の実績も踏まえて高く評価した。

（グッドデザイン賞ホームページより抜粋）

※実際の城泊料金：1泊2日／2名 1,100,000円～





SADA棟



MUNE棟



MUNE棟(宿泊室)



MUNE棟(宿泊室)



OKI棟



MUNE棟(宿泊室)



臥龍煉瓦倉庫(地ビール)



MUNE棟(店舗)



MUNE棟



臥龍煉瓦倉庫



臥龍煉瓦倉庫(2階)



AKI棟



AKI棟(宿泊室)



一般社団法人
キタ・マネジメント
代表理事 高岡公三さん

大洲市の歴史的・文化的資源を活用することで、新たな価値を生み出し、人が集まる場所にするすることで、町の賑わいを取り戻し、そして地域経済を牽引できるまちづくりに取り組んでいます。

これからも「大洲」の名前を全国に、そして世界の人にも知ってもらえるように官民連携しながらPRに努めてまいります。



株式会社KITA
代表取締役 井上陽祐さん

町家・古民家を活用した「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」には、2020年7月のオープン以降、2021年10月末までに約2,300組、延べ約4,500人にご宿泊いただき、大洲城キャスルステイも11月までに8組のご利用があり、もう一度宿泊したいとの声も多くなっています。

空き家となった古民家などを再生させることでまちの魅力創出と観光消費の増加につなげていきたいです。